

(様式7)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270100864		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	久米の家		
所在地	島根県松江市法吉町久米803番地2 (電話) 0852-24-8439		
評価機関名	NOP島根介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年10月30日

【情報提供票より】(19年 9月 7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 7日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 6人, 非常勤 4人,	常勤換算 8.7

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建
------	-------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(9月 7日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	0	要介護2	3			
要介護3	3	要介護4	3			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	85.3歳	最低	72歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 石田内科小児科医院 須山医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆっくり・楽しく・一緒に・穏やかに」の理念の下に職員の支援が展開され、利用者は落ち着いた生活を過ごされている。認知症の理解促進のため、公民館での講演会活動・地域福祉推進会議での講演会を行う等啓発活動に意欲的である。地域の高齢者向けADL教室の開催や「ホーム公開の日」が設けられる等、オープンなホームづくりに力が入られ、住民から「年を取っても安心できる」と喜ばれ、ホームの存在が歓迎されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ①介護計画の実施期間の明示や達成状況等の確認、②職員の休憩環境の確保や夜間介護の軽減などが挙げられていた。①は書式を分かりやすいものへと試行中である。②は休憩室が作られ時差で休憩を取る、隣接施設との協同により複数の夜勤体制も実現されそれぞれ改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 二日間にわたり全職員で検討し自己評価を行った。外部評価の結果も定例会議で改善に向け検討され、自己・外部評価結果は誰でも閲覧できるよう居間に置かれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 三ヶ月に一回程度開催され、毎回のように近所の方が4人、行政関係者が複数参加する等多くの参加者がある。ホームでの様子や外部評価・年間行事の報告検討をはじめ、諸行事について検討したり、利用者の散歩の安全確保のため溝の蓋を設置してもらおう等の意見も出されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月の請求書や領収書の送付の時、利用者の様子等を写真やお手紙でお知らせしたり、「久米便り」や介護計画を添付している。家族に理念を理解して頂く働きかけをしたり、地域の方々と一緒になって夏祭りに取り組んでもらっている。苦情があった場合にもきちんと対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の一員として回覧板を回したり、町内運動会に職員が参加する等地域との交流を心掛けている。利用者は公民館活動にも参加し陶芸で作った茶碗を使用したり文化祭に作品を出展したり、老人会・高齢者福祉大会等にも参加する等、積極的に連携が取られている。毎月、地域に向けて「ホーム公開」の日が設けられ、馴染みの関係作りにも力が入られている。

## 2. 評価結果

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一緒に・楽しく・ゆっくり・穏やかに」の理念の下地域住民や公的機関との関わりも積極的に持ち、利用者を支援しているが、地域密着型サービスとしての理念の明文化はこれからである。	○	「地域住民との交流の下で」の活動の意義を地域密着型サービス事業所理念としてどう位置づけるか十分な議論をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所など目に付くところに掲示されている。月二回の定例会議では理念に沿った介護の実現のため、職員間で話し合っている。規定内に利用者の権利に関する記述がない。	○	文書規定に日々の実践にそぐわない一方的な表現が見受けられ、利用者の権利も明記されていない。全体的な見直しを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の一員として回覧板を回したり職員が地域の運動会に参加する等近所と交流している。公民館の文化祭に利用者の作品を出展したり、老人会・高齢者福祉大会などにも参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	二日間にわたり全職員で自己評価について検討した。外部評価の結果も定例会議に報告され、改善に向けて検討されている。自己・外部評価結果は誰でも閲覧できるよう、居間に置かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一回程度開催され、近所の方の複数参加や毎回行政関係者が複数参加しているなど、市町村との連携も見られ、外部評価の結果票や行政への要望なども話し合われている。夏祭りに共に取り組んだ。	○	日常のケアに意見が反映するよう議題を充実することや二ヶ月に一回の開催に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は事業所で判断できないこと等を相談しに出向いたり、担当者もホームに来るなど相互の行き来が行われ、スムーズな連携が取られている。包括支援センターや公民館の要請を受け、認知症学習の講師も行った。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書や領収書の送付の際利用者の暮らしぶりなどを写真やお手紙で知らせたり、久米たよりや介護計画も送っている。日々の面会時にも様子を知らせたり、職員の異動についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の場や地域推進会議の場などで意見や要望を聞くようにしている。契約時に国保連や市役所の苦情係り・ホームの苦情相談係りの紹介をしている。出された苦情にはきちんと対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接施設の職員の出入りなどで、一時不穏状態があったが、自己紹介したり一対一で話し合ったりとコミュニケーションを蜜に取ることでおさまった。管理者は馴染みの関係作りに心掛けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修後は定例会議の場で報告され全職員へ伝達されている。資格取得の支援もあり、ケアマネ等5人が新たに資格を取った。職員育成のための学習等の年間計画はこれからとなっている。	○	施設外研修の内容を参考にホーム内の学習に取り組まれているが、職員育成の計画的な取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	救急救命法やリハビリテーションについて近隣の同業者同士で研修を行ったり、記録の仕方の意見交換もしている。夏祭り等で相互に行き来し、交流をしたりサービスの質向上に役立てている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に先立ち、利用者や家族にホーム見学や一～二日の体験入所を実施したり、職員との関係作りや家族や利用者の関係者に面会にして頂いたり利用者や家族が馴染めるよう工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花の育て方や料理の方法等の生活上の知恵やアドバイスをもらったり利用者からいろいろと学んでいる。職員一同は利用者や家族と喜怒哀楽をともに共有するよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力も得てセンター方式を活用している。利用者の過去の状況や希望・意向の把握が出来るようになった。困難な時は利用者の言動・つぶやきなどを参考に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に利用者や家族の希望や要望を聞き、全職員や関係者で話し合いながら介護計画を作成している。個別援助シートの活用等で統一事項の徹底が行われているが、第三者に分かりにくくやや一般的な計画となっている。	○	センター方式の活用で利用者の情報が細かく収集されている利点を活かし、個別性のある介護計画の立案に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月2回の定例会議や朝のミーティング時を利用して、利用者の状況変化に対応して見直しが行われているが、到達や評価が別途に記録され分かりにくく、期間も一ヶ月に一回となっていない。	○	一ヶ月に一回の見直しの実施と記録類の合理化と分かりやすい書式等の工夫を望む。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	眼科・耳鼻科・精神科・歯科受診等に同行したり、ドライブに行ったりと利用者や家族の要望に応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医による二週間に一回の往診や通院で受診支援を行っている。以前からのかかりつけ医に受診される利用者も居られ、家族と協力しながら通院介助をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応にかかる指針」が作成され、家族会で説明したり利用者や家族に希望を聞く等話し合っている。看取りの事例はないが、見取り経験がある職員もいて全員で方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導や失敗した時の声掛け等本人のプライドやプライバシーに配慮した対応に心掛けている。職員はゆったりと対応しており、記録類もきちんと管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で新聞を読んだり、時にワインやビールを飲んだり、歌を歌ったりと利用者の希望やペースに沿って支援されている。職員は「ゆったり」を基本に、穏やかな日が過ごせるよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事やおやつも利用者と同じものを摂り、味付けのこと等を話題にしながら全員で食事を楽しんでいる。味付けや盛り付け・配膳等、利用者の出来ることを見極めながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日や夜間・昼間といつでも入浴できる。夕食後の入浴を楽しむ利用者も居られ、支援のための体制も取られている。利用者と職員の相性にも配慮され、楽しむための環境を作っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りや花生け・洗濯物干し・掃除・盛り付け・茶碗拭き等、日々の生活の中で役割を持ってもらったり、餅つき・笹巻き等の楽しみごとへの支援もしている。利用者が感謝される日々が送れるような支援を心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には洗濯物を干したり、交代で買い物に出かけたり、職員が所用で出かける時に同乗してもらおう等、外に出る機会を持つようになっているが、日常化はこれからの課題となっている。	○	外出の際のタクシー代やホームの車の利用等で苦勞されているが、散歩を日常的に取り入れる等、戸外に出る機会を多く持つような支援に期待したい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠されておりセンサーもない。利用者は気軽に外に出たりと自由に出入りが出来る。徘徊時は近所の方のサポートがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域や消防署と協同した避難訓練等を定期的に行っている。災害時の報知器を外に設置して速やかに地域に知らせる等の工夫がある。水害時のマニュアルや備蓄品の確保はこれからである。	○	備蓄品を三日間分確保して頂きたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	近所や旅館等の差し入れがあり、計画的な献立ではなく柔軟な食事内容である。栄養士資格があるボランティアが栄養バランスをチェックしている。水分摂取は一日1500cc程度である。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下の奥にはソファが置かれ、利用者が思い思いに過ごせるように配慮されている。居間に沿ってベランダがあり、裏山の小鳥のさえずりを聞いたり、紅葉や小庭を見て寛いだりと季節を感じる事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れた毛布や布団、位牌・家族との写真・絵画等が持ち込まれ、利用者にとって心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。